

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992600092		
法人名	株式会社 共栄		
事業所名	グループホーム ほほえみ		
所在地	高知県幡多郡大月町弘見4163-247		
自己評価作成日	平成25年9月3日	評価結果 市町村受理日	平成25年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●施設環境の整備・地区の民家とは少々離れているが、周囲は田園風景が取り囲み、広い敷地に木造1階、床面積405.05㎡の建物を整備しました。施設内の中央の廊下幅は2.275mをとり、明るくゆったりとした雰囲気づくりと、個室は我が家を思い出せる個性にあふれた住処づくりを目指して支援しております。居間の隣の部屋を地域交流室とし、地域の方々が自由に入出入りして頂けるように配置し、居間と地域交流室は可動間仕切りとし、地域の方々と自由に交流できるようにしました。玄関やその他のドアは夜間以外は施錠せず、精神的な拘束を防ぐ取り組みをしています。

●人生楽しく自分らしく一日一日を笑顔で過ごすことのできる共同生活の形成を基本理念とし、「にこにこ顔と笑い声の聞こえるぬくもりのある我が家を……」をめざし、入居者様と従業員が、「今」をみつめながら関わってゆく中で、お互いの心からの笑い声が、耳に届き、心に響く、そんな「ぬくもりのある我が家を」時にめざし、時につくりながら、一瞬、一瞬を大切に、共に過ごしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JgvosyoCd=3992600092-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成25年9月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は平成25年3月に開設し、半年を迎えたところである。事業所の理念として、1. 利用者の基本的人権を守る 2. プライバシーの保持 3. 自由な生活の保障 4. 地域の一住民として の4点を掲げ、各項目ごとに具体的な行動目標を明示して取り組んでいる。開設後の期間は短いですが、管理者は職員の教育に力を入れ、職員は接遇やマナーを遵守しながら、利用者一人ひとりがあるがままに受け入れることの難しさとともに、表情等から思いを汲み取りそれに応えることの喜びとやりがいを感じている。居室は、利用者の入居前の生活につながるように整えられ、日々の暮らしでは、利用者のその時々をしたいことや希望に応じられる職員体制をとって、散歩や買い物、自宅近辺のドライブなど随時に支援を行っている。利用者は、表情豊かにのびのびと過ごしており、職員との一体感もあり、穏やかな雰囲気暮らしている。全職員が理念を確実に実践につなげようとする熱意を持っており、今後に期待できる事業所である。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初の職員研修の初回には、「理念」についての理解と、理念を共同生活支援に実践していく方法について教育した。開設後はその実践をめざし、スタッフ会で支援方法についての見直しを協議している。	主な理念は①基本的人権を守る ②プライバシーの保持 ③自由な生活の保障 ④地域の一住民として の4点とし、実践的な内容も明確にしており、全職員の道しるべとして日々の中で実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域団体との連絡連携をとり、地域のイベントは必ず通知を頂き、入居者様の希望により参加することや、各種のボランティアグループに来訪いただき、交流できるように配慮している。食材や日用品のほとんどを町内での購入とし、また入居者の希望により個別の買い物やその他の外出に同行し、ホームで暮らす人々への理解も深めるよう支援している。	歌と踊りの発表会等の地域行事に参加し、事業所にはボランティアグループが交替で毎月来訪して演奏や踊りなどを披露してくれている。住民は気軽に立ち寄ってくれ、野菜や菓子等の差し入れには記録してお礼を欠かさないようにするなど、地域との結びつきを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各種団体からの施設見学や講演依頼があり、その都度対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開業して5か月経過した事業所はまだ未熟であり、運営推進会議での話し合いやご意見は事業所の取り組みの見直しの機会となる。	初回の運営推進会議では、会議要綱、理念、パンフレット、年間行事、消防計画等を説明し、委員に事業所を理解してもらうことを中心に協議されている。委員の意見は、事業所の看板の設置や地域住民との合同輪投げ大会の開催等に反映されている。会議録の公開は準備中である。	予定している会議録を家族に配付することや、今後の会議において自己評価及び外部評価制度のサイクルに沿った報告や協議等も議題とすることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険担当課とは指定作業や、その後の必要な申請文書作成等について随時指導を受け、地域包括支援センターの開催する地域ケア会議には参加し、大月町全体の福祉情報を共有することに努めている。	町へは運営推進会議、地域ケア会議等で事業所の実情を伝えるとともに、介護制度上の相談等を行っている。また、町から認知症ケアの講師に招かれたり、健康づくり推進委員や議員の見学を受け入れる等、相互協力の関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初の職員研修には身体拘束排除マニュアルをもって教育し、日々のケア活動でも実践できている。玄関は施錠せず、早朝の施設周囲の散歩を希望する入居者には、まず付き添い同行し、大丈夫と見極めた方には自由に散歩に出て行って頂けるような職員のケア意識もできた。	事業所のマニュアルに沿って研修し、身体拘束となる行為やその弊害を学んでいる。入居初期に、利用者の行きたい場所を把握し、希望に沿って随時買い物、自宅近辺のドライブ等に同行するほか、事業所周辺を自由に散歩できるかどうか見極め、家族へリスクの説明も行いながら自由な暮らしができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	開設時の職員研修に高齢者虐待防止マニュアルをもって教育し、虐待の細かい内容を周知認識し、虐待防止に務めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は制度の理解はあり、入居者の1名の方は遠い将来この制度の活用が必要になると考えて研究しているが、職員にはまだ、その制度についての伝達や教育の場をもっていない。今後の所内研修にも取り入れたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全員の家族様に入居時に契約書や重要事項説明書をもって説明し、理解を得ていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、入居者様の訴えは職員や管理者が早く把握し、また家族様には個々の入居者様の状況を月1回は文書でお知らせし、また随時来所時や電話等で連絡を取り、意見や要望をお聞きしている。	利用者の意見は日々聞き取り、洗濯物の配付を間違わないことや、害虫への早期対応等の要望が出され対応している。家族については、面会時や電話等を通して聞くようになっているが意見等は出されていない。また、家族同士で意見が出せるような仕組みが設けられていない。	事業所として家族会設立の準備中であるが、時期を検討して実現し、家族同士の話し合いの場を設けるなど、できるだけ率直な家族の意見が聞ける機会を設けていくことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会を毎月定期的に関き、意見交換をしている。また雇用契約3ヶ月経過した7月中旬には個別の面談を行い、個々の職員の持つ意見を聞き、取り入れるべき内容は実現させた。	職員との個別面談では、考え方や意見を聞くとともに実践場面での長所を伝えている。職員の意見により、日誌の書き方、業務分担、レクリエーションや創作活動の取り入れ等多くの改善を図っている。また、休暇が取りにくい状況を代表者に相談して改善することで、職員の士気を高めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	7月中旬の個人面談は、代表者が面談し、個々の職員の勤務に対する意見を聴取し、また月々の勤務シフトやその結果にも目を向けている。週に1度はグループホームに出向き、施設での入居者様と職員とのかかわりを知ることになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者が多種の資格と経験の保有者であり、施設内での教育は日々できていると認識しているが、施設内で入居者様達がニコニコ顔で暮らせるためにはケアの質が重要だと認識しており、機会を捉えた研修参加を推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長年グループホーム経営を続けてきた同業者と代表者は懇意な仲であり、開設時の株式会社の取締役の1員にもなって頂き、職員の実習場所としての提供も受けた。開設後は町内の施設との連携ができるように配慮している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時当初は管理者が1対1でしっかり付き合うことに務め、ご本人の困っていることや寂しい思い、不安な事、ここでの生活でしてみたいことなどを聴き取り、それぞれの方のもつ個性や特性を知ることに務めた。亡くなった夫を一人で残してきたのが気がかりと訴える方には、お部屋にお位牌を持参していただき、朝夕にお水やお供え物を取り換えていただくことで、心が落ち着かれた方もある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様のお宅に数回訪問し、家族様の相談事を受け、親や妻を施設に入居させることに対する葛藤や経済的な心配事や多種多様な要望に耳を傾け、問題解決のできる助言をした。また入居後は、来所や文書や電話で、入居者様の様々な変動や日常生活の状況について報告することで関係づくりができていていると思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の状況に合わせて、入居者様のご希望をその都度家族に確認し、家族の同意を得てサービス導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は週40時間(5日間)のシフトを組み、日常生活支援業務で多忙ではあるが、業務優先ではなく、入居者様の心理面のケアを優先することをモットーとすることを基本とし、一人一人の入居者様達ができることは声をかけて共に行うよう誘導し、9人の方々が仲間作りができる雰囲気づくりに務めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望や不安が強い時は、家族に連絡を取り、電話をかけて頂いたり、来訪して頂いたり、外出に連れ出して頂いたり、家族とともに本人の心の安定を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それぞれの実家のある地域にドライブし、友達や知人とあったり、自分の畑にツワを植えていたので、見たいと言えばその畑に独歩可能な方も同行してツワの採取に行く。また、理美容院は行きつけのお店にそれぞれをお連れし、理美容院で地域の方々の世間話を聞きながらパーマやカットをして頂く等気分転換も図っている。	利用者の馴染みの人や場所の情報を詳しく把握するよう努めており、自宅近辺をドライブして友人や知人に会ったり、自宅の畑の作物を収穫して馴染みの人や場所に触れる支援をしている。また、行きつけの理美容院を利用したり、家族の協力も得ながら関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴で他の人との会話が續かない方には、職員が中に入り会話をつないだり、一人ぼつんとしている方には声をかけ、仲間の中に入れて頂けるよう配慮したり、洗濯物を畳んだり整理したりの共同作業は車いすの方も輪になって頂く、あるいは、レクリエーション的取り組みで仲間意識づくりを向上させるなどの取り組みをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設後5か月経過した現在は、まだ退去者はいないが、今後そのような事態になっても関係性は尊重し、支援に務めたいと思っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居初期は特に思いや意向を把握することに務め、その後の日々の生活の中での希望や意向の把握に務め、個々の職員は把握した内容を他の従業員にも日誌や連絡帳で知らせ、管理者には口頭報告を行い、管理者はその報告をもとに対処方法の対策をとっている。	入居時に、行きたい場所や、したい事を把握して日々の希望に応じて支援している。また、新たな情報は連絡帳で全職員が共有し、ケアに活かしている。意思疎通が難しい利用者には、表情や言動から思いを汲み取るようにし、早めの対応を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のフェイスシートには必ず詳細な生活歴を情報収集して記載し、情報を職員全員が周知するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活状況や水分摂取排泄状況、バイタルサイン、食事摂取状況等を逐次記録し、勤務シフトに応じて記録係を決めて記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会で個々の入居者の状況を検討してケアを計画し、家族様には随時連絡をとり、本人・家族・職員の統一した課題に取り組む介護計画を作成している。	利用者や家族の意見、地域の情報等をもとに職員で話し合い、介護計画を作成している。計画は、家族も含め地域資源を活用した内容となるよう心がけ、本人に相応しい暮らし方、イメージができる目標設定、分かりやすい具体的な計画等を作成上の課題としている。まだ、モニタリングはできていない。	まずモニタリングの実施等基本的な手順に沿った取り組みが望まれる。本人らしい暮らしの継続を図るという、日々の実践に即した介護計画や実施記録になるよう、今後の経過の中で計画的に改善していくことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の生活状況・バイタルサイン・食事摂取状況・レクリエーション・共同作業・排泄状況・水分摂取状況・ADL状況・介護サービス状況・心身の健康状況等についてチェックし、記録しているが、その状況を介護計画の見直しや医療受診時等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば、初期のサービス方針では、同居家族が居る場合は、町外の医療機関の付き添いは家族の役割として相互理解していたが、仕事を休めない家族の定期受診の場合は、管理者が同行するなど、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	管理者が大月町の元保健師であり、町の行政職員の履歴があり、地域資源の活用は専門であるため、地域資源はフルに活用できる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療業務委託契約病院宛てに、入居までの町外のかかりつけ医から紹介状をもらい、月1回の往診医療と随時の外来診療を受け、専門科のある病院受診が必要な場合は、随時受診を支援している。	利用者や家族の希望に沿って、協力医療機関や専門医の受診を支援している。協力医療機関からは、月1回の訪問診療があり職員が対応しているが、専門医の受診には、家族が対応している。いずれの場合も家族や医療機関、全職員間で情報を共有しながら適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護職の資格も持ち、日常の気づきや発見は管理者に報告し、管理者は主治医や関係者と連携し、個々の利用者の適切な受診を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	9月2日に開設以来初めて入居者様が入院したが、日々病院を訪問し、家族や本人様と面談し、退院後の受け入れ態勢についても協議を重ねている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針については重要課題ではあるが、まだ個々の方々や家族の方々との話し合いはしていない。一人の方については、金銭的な問題で重度化すれば老人福祉施設に入居したいという希望をお聞きしている。他の方々とは状況をみて話し合っておきたいと思っている。	看取りに関する指針や同意書は作成しているが、まだ家族等への説明はできていない。また、医療機関との連携や事業所の体制整備等が課題となっている。	指針に沿った説明を行い、家族や利用者の意向に沿ってチームで支援できるように、医療機関との連携や事業所の体制整備が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の初期研修では緊急時対応マニュアルによる学習をしたが、秋の防災訓練時には、消防隊員の協力のもとに実技研修を受講する予定である。AEDの訓練は受講したが、今後も回を重ねて実践力を身に付けたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアル・消防計画をもとに、今後の防災訓練の回数を重ね職員の実践力を身に付けたい。地域の協力体制は、運営推進会議で協議を重ね、築いていきたい。	初めての自主訓練を10月に予定している。災害時は、事業所周辺の空き地に避難するようにしているが、非常食も含めた備蓄ができていない。消火器等の定期的な点検は実施している。	住宅地から離れていることもあり、早急に備蓄の準備をするとともに、地域住民の参加と協力を得ながら、定期的な自主訓練が行えるよう、取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念とケアの具体的方針に「一人ひとりの尊重とプライバシーの確保」を基本的な項目として位置づけ、職員の意識高揚に務め、言葉かけや対応をしている。	居室を一人ひとりの「家」と見なし、居室の出入りや衣服の入れ替え時は同意を得るようにしている。利用者のその人らしさを理解し、年長者への敬意を持って接することで尊厳を守るようにしている。個人情報、事業所外で口にしないよう職員に周知徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉による表現のみならず、行動や顔の表情等の非言語的コミュニケーションを駆使して個々の希望や思いをキャッチし、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるものの、起床時間も個々の生活に合わせて6時から7時半ごろにゆっくりとモーニングケアを行い、集団で行うこと以外は、出かける方、おしゃべり、自室で午睡、リビングでテレビ、洗濯物を干したり畳んだりと自由に行動してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの行きつけの理美容院に同行し、カットやパーマあるいは散髪と、ご希望に合わせたおしゃれをしていただき、朝夕の衣類交換もご自分の好みに合わせて決めていただき、衣類の洗濯は朝夕の着替えに合わせて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お年寄りの第1の楽しみは食生活であり、田舎のお年寄りの好みに合わせた献立や、お年寄りの腕自慢があれば味付けや食材の準備をして頂く。鶏肉が苦手な方には、魚を準備したり、また、春には山菜採りにみんなで行き、撮った山菜の皮むき作業はみんなで行うなど、楽しみを増やしている。	献立は、標準的な献立資料を参考にしながら、利用者の好みを反映し、「ご馳走」を感じさせるアレンジを心がけている。買い物、下ごしらえ、調理、準備や片づけ等利用者それぞれ得意なことを活かしながら、職員と一緒に作り、食事をする中で楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は1日1000～1500ccをめざし、1日7～8回は何らかの飲物を提供している。食事バランスは、実習指導を受けたグループホームの献立は管理栄養士の査定指導を受けていたものなので、その献立バランスに習い、栄養バランスに留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の心身機能の状況により、自立や介助で口腔ケアを行っている。中には定期的に歯石の除去や入れ歯調節の歯科受診に通院同行している方もある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄機能が自立している方、一部介助の方、全介助の方等色々な状態であるが、介助が必要な方や尿意なしの方には時間的な状況をみてトイレ誘導している。心身機能が向上し、移乗も全介助から少しの支えで移乗できるようになり喜びの声もある。	排泄間隔やサインを把握してトイレでの排泄を支援している。夜間は、ポータブルトイレ等の使用により随時の対応をしている。排泄用品は、尿量や夜間等を考慮し、利用者に適したものを使用している。また、排泄ケアの研修にも参加しケアの充実を目指している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や、食生活の工夫、また主治医の処方による便秘薬の服用等、日々の排便には全員の状況に留意して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	7月から9月までは全員シャワー浴を基本としているが、その日の本人の意向や心身の状況に合わせてシャワー浴を希望しない方は、陰洗や清拭で更衣するなど配慮している。シャワー浴の時間帯は本人様の要望に応じたり、それぞれが順番を譲り合ったりと和気あいあいの中で進んでいる。	入浴は、7～9月は基本的にシャワー浴とし、毎日午後の時間帯に利用者の希望に沿って入浴できるようにしている。入浴を拒む利用者には、声掛けや時間をずらすなどし、無理強いしないように対応している。利用者の様々な要求に応え、個々に沿った支援をしている。	浴槽に浸かる寛ぎ感や疲労の回復等入浴本来の意義を職員で共有し、これまでの生活習慣を尊重した入浴支援が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝・起床時間は本人の希望に合わせ、また午睡も希望に添ってとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月1回の往診医療による処方薬を個別に管理し、管理者の管理のもと、処方に応じた服薬支援を職員が行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の入居者様の生活史と、できること、したいことを明確に理解し、その人らしい楽しみづくりの支援の工夫をしているが、個々の方々が心から喜びと張り合いの生活を送れているのかは、いつも気にかかる事であり、今後も創意工夫が必要である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人一人の外出希望にできるだけ添えるような取り組みが、施設での生活にはとても重要なことだと思ひ、支援している。例えば、町外まで年金を引きに行き、そのお金で散髪と買い物をしたと希望する方には半日お付き合いしたり、少しいらしているなどと思える方には声をかけ、ドライブに行ったりと工夫している。	一人で可能な利用者は、事業所周辺を自由に散策している。また、買い物や理美容院の利用、自宅近辺のドライブ等希望に応じて外出支援を行い、地域のイベントや近辺の散歩には皆で出かけ、住民との交流や季節の移り変わりなどを体感できるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から少額を渡されている方もあるが、ほとんどの方は管理者に預け、本人には事務所に預けているので、自由に買い物やカットに使っていいことを説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は子機を使って自由に家族との電話をして頂き、自分でかけることができない方には希望に添って職員が電話をかけることにしている。手紙については自ら書くことができない方々であり、手紙でのやりとりはできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新築の建物であり、壁やテーブル、ソファ等の色合いは落ち着いた色合いにまとめ、居心地の良い空間づくりについては、畳の中敷を生活感あふれる場所にしたいと思い、工夫はしているが、昔なじみの茶筆筒や置物等を今後用意したいと思っている。	居間兼食堂は広く、間仕切りで地域交流スペースとつながり、ボランティアグループによる催し物や、地域住民との交流行事に参加しやすい構造になっている。また、散歩時に採集した植物で職員と一緒に作った苔玉を利用者の作品として展示したり、草花を活けて親しみと季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの方々の好みの場所がある程度決まってきたので、座布団や、クッション、足置き等の工夫等をして思い思いの過ごせる場所づくりに留意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に特に強調して依頼し、本人様らしい居室づくりに協力して頂いた。しかし、男性の居室や車いすの方の居室は、まだまだ工夫が必要だと思っている。	使い慣れた家具や電気製品、小物等のほか、趣味である数種類のお面やパッチワークの作品を壁に飾ったり、配偶者の位牌を置くなど、それぞれの利用者らしさのある居室となるよう、家族の協力を得ながら積極的に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとし、自走用車いすでも自由に活動でき、中央の廊下は2.275m幅をとり、ゆったりと行動できる。台所はオープン方式とし、入居者様も職員と一緒に調理場に立つことができる。リビングの畳の台座は洗濯物を畳む、あるいは野菜の皮むきに腰を下ろす、あるいはみんなでおしゃべりする、レクリエーションに使う、横になりたいときにゴロンとなる等色々な使い方ができる。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				